



研究大会を開催しました

研究大会当日は多くの来賓の皆様を始め市内各地のPTA会員の皆さんにご来場頂きました。
今年の講演は都内で義務教育初の民間人校長として、活躍されました藤原和博氏をお迎えし、講演を頂きました。
今の保護者が育ってきた20世紀のみんな一緒「正解主義」の時代から、今の子どもたちの置かれている



保倉会長あいさつ

講演会
演題 「つなげよう！学校と地域社会
～子どもたちの未来を拓くために～」
講師 藤原 和博 氏 教育改革実践家
杉並区立和田中学校元校長
期日 平成27年11月23日
場所 上越文化会館



アトラクションとして城北中学校吹奏楽部の演奏

21世紀のそれぞれ一人一人「修正主義」の時代に変わってきている。沢山の情報の中から必要な情報を選択し、「つながり合わせ答えを出す」「納得解」が今後の教育に重要になってきているのを保護者の皆さんにも理解して欲しい。「保護者の皆さん、頭を柔らかくしましょう！」そして自分の子どもとの関係（縦の関係）だけではなく地域としての関係（斜めの関係）筋交いが非常に大事である事など、時より笑いを混ぜながら分かりやすく講演を頂きました。（広報委員長 塚田）

これからの世の中、暗記だけの勉強だけではダメだと言う事は何となく分かっていましたが、今日の講演会で具体的にどうしたらいいか分かりました。

とにかく正解のないことに対して子どもに問いかけて考えさせる、それを私たち大人も一緒に考え思考の枠を広げる事が大事だと。

（保護者より）

講演はとても分かり易くスッと入って来る内容でした。これからの学校、家庭教育の在り方、世の中の動きが分かり具体的な示唆を頂いた。いずれにしても休日（祝日）のひと時、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

（学校より）

脳の活性化する為、コミュニケーション力のアップが極めて重要で有る事分かった。現代の学校教育は変わりつつあると思いますが、テスト方式が変わらない限り、学校を変われないのではないかと思います。これからだと思います。

（地域の方より）

つながる力・頭を柔軟にするコミュニケーション力、とても共感いたしました。仕事も同じことが言え、今までと違い個々、一人一人という言葉につくづく賛同いたしました

（保護者より）

今、現場の教育は学力向上に向けて大変悩んでいます。数値による評価によりかにか学力を上げるかと考えていますが今日の話は大変勉強になりました。情報処理能力を大切にしながらいかにつなげる力を育てていくか自分の思考を変える良いきっかけとなりました。自分の考え方も柔らかくしてこれからの教育について考えてみたいと思います。

（学校より）

情報処理から情報編集へと社会教育が変化してきている現在、今までの処理から情報編集出来るやり方を具体的な方法を示しながら教えて頂きとても勉強になりました。

（学校より）

親子での話し合う時間を多く持ちたいと思いました。考える・つながるを大事にしていきたいと思いました。

（保護者より）

著書も多く出版されています

今求められる力 ～これからの家庭学習のポイント～

◇次の問題に答えましょう

- 問1 $35 \times 0.8 =$
 問2 1mで35円のリボンがあります。0.8m買うといくらになるでしょうか。
 問3 計算が 35×0.8 で表せるような問題(文章題)を作りましょう。
 問4 あなたは部屋のリフォームを考えています。あなたの部屋は、縦5m、横7m、高さ2mの部屋です。今回あなたは、床に「つや出し」を塗り直そうと考えています。お店へ行ったところ、「つや出し」は、1本2L入りで300円、0.8Lで1㎡塗ることができる、と売られていました。「つや出し」は何L必要でしょうか。

知っている・できる

いずれも小数のかけ算の問題です。みなさんが馴染みのある問題はどれですか。よく解いたのは問1では？

小数のかけ算の技能が身に付いているかどうかを問う問題(知っている・できるレベル)です。問2は文章題のためやや難しく、応用問題に位置付けられますが、機械的に計算しても求められるので、問1と同様の問題と言えます。いずれもお子さんをお持ちのドリルや問題集に今もあります



どう考えるのか？

基礎・基本として「知っている・できる」ことは重要です。もっと重要なのが「分かる」「使える」ということです。学校の授業においても、計算ができるようになるだけでなく、「なぜそうなるのか?」「どう考えるのか?」等を問い、仲間との関わりの中で学ぶことを大事にしています。これは、算数に限ったことではなく、全教科・領域において取り組んでいるところです。

分かる・使える

では、問3や問4はいかがでしょうか。問3は小数のかけ算で、答えの出せる生活場面をイメージできるかどうか、計算の意味を問う問題(分かるレベル)です。そして、問4は生活の中にありそうな問題です。今までの学習で身に付けたどの知識・技能を使うか判断し、必要な情報を取り出して筋道を立てて考える問題(使えるレベル)です。最近のテストには、このような問題が出ています。つまり、「分かる」「使える」レベルが、今求められる力ということになります。

グローバル化や情報化が進展する社会の中では、先を見通すことが難しくなっています。子どもたちの65%は将来、今は存在していない職業に就くだろうとも言われています。また、今後10~20年程度で半数近くの仕事が自動化される、といった予測もあります。これからの子どもたちには、社会の急激な変化の中でも、自立し、主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協力して物事に取り組んでいく力が求められます。みなさんの職場や地域で求められる人物像と同じではないでしょうか。



(上越市教育委員会
学校教育課 石黒 和仁)

宿題をする児童生徒の割合は高い一方で予習や復習をする児童生徒の割合が低い、家庭での学習時間が少ない等、家庭での学習習慣の定着が課題です。家庭学習においても、繰り返しドリルをするだけでなく、どうしてそうなるか考える、自分で問題を作って解く、考えを問う問題をする、テーマを決めて調べる、難問クイズを家族で仲良く考える、こういったことにも取り組んでみてはいかがでしょうか。同じ本を読んで感想を伝え合う「家読」もおすすです。

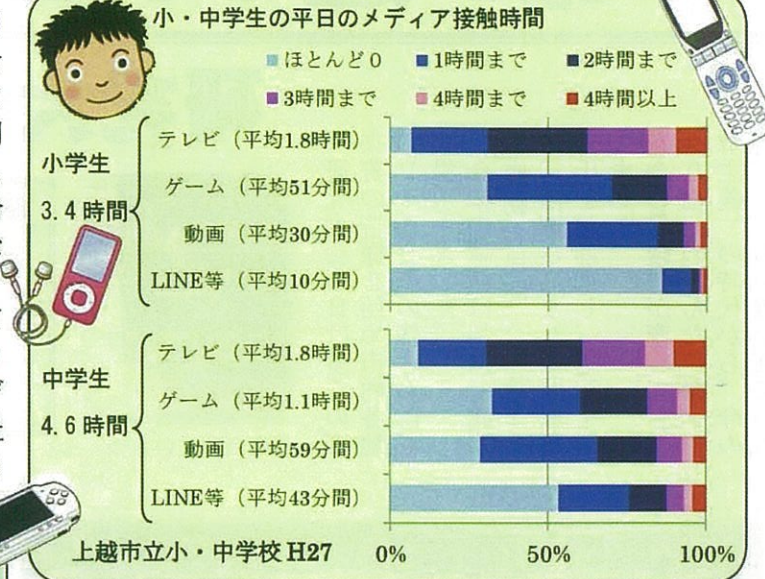
引用文献 石井英真「今求められる学力と学びとはーコンピテンシー・ベースの
カリキュラムの光と影ー」、
日本標準ブックレット No.14、2015

ペアレンタルコントロール アウトメディアの取組

子ども自身がメディアとの関わり方を自己コントロールできるとよいのですが、なかなか難しいものです。子どもたちのメディア接触を保護者が調整・制限していくことをペアレンタルコントロールと言います。

上越市の小学生(3~6年生)と中学生(1・2年生)に、テレビや動画を視聴したり、ゲームやLINEをしたりする時間を調査したところ、右のグラフのようになりました。テレビの平均視聴時間は1.8時間で、中には4時間以上視聴している子どももいます。メディア接触の時間は、休日になると更に増え、合計時間は、小学生4.9時間、中学生7.0時間にもなっています。

さて、このメディア接触時間を1年間で計算してみましょう。登校する日を平日として200日、残りの165日を休日として計算すると小学生の年間メディア接触時間は1488時間にもなります。国語・社会・算数・理科の授業時間を合計したものと比べると、3倍以上です。中学校は4倍にもなります。



小学生のメディア接触時間

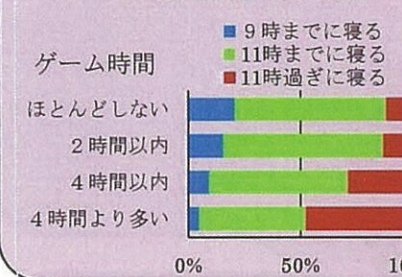
3.4時間×200日+4.9時間×165日=1488時間
 国社算理の年間授業時数(×45分)≈約420時間

中学生のメディア接触時間

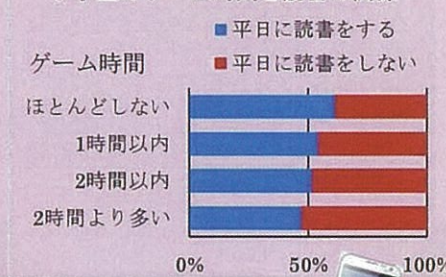
4.6時間×200日+7.0時間×165日=2075時間
 国社数理英年間授業時数(×50分)≈約500時間

こんなにたくさんの時間、メディアと接触している子どもたちの家庭生活は、どうなっているのでしょうか。この調査では、就寝時刻、読書や家庭学習の時間についても併せて調べています。例えば、ゲームをする時間との関係は、下のグラフのようになります。当たり前ですが、ゲームの時間が長くなれば、就寝時刻は遅くなり、読書や家庭学習をしなくなります。

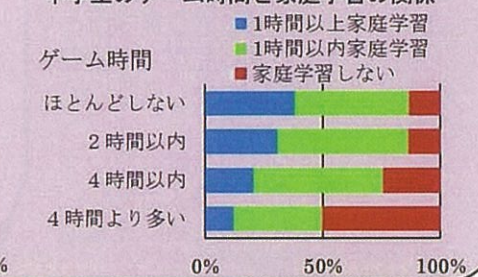
ゲーム時間と就寝時刻の関係



小学生のゲーム時間と読書の関係



中学生のゲーム時間と家庭学習の関係



タイムマネジメントできる子どもに！

ゲーム機やスマートフォンなどを買い与えるのは簡単ですが、子どもの時間がメディアに奪われることを覚悟しておかなければいけません。購入する前によく計画し、子どもと話し合っておきましょう。

大切なのは、タイムマネジメント(時間の自己管理)です。子どもには難しい…とあきらめるのではなく、計画表を作って自分の生活時間を見つめられるようにしましょう。自分の生活時間を見つめて計画ができれば、睡眠時間も学習時間もメディアで楽しむ時間もバランスよく確保できるはずです。

そして、なんといっても大切なのが、親が手本になることです。親自身もテレビやスマートフォンと接触する時間や場所をよく考えて、自己管理する姿を子どもに見せていきましょう。

親がメディア活用の手本になります！

メディア貸出し方式

スマートフォンなどを「家庭内レンタル」としている保護者もいます。子どもに買い与えるのではなく、親がもう1台購入したスマートフォンを子どもに貸し出すという説明をしているのです。完全に子どもの持ち物にしない方式です。レンタルですから、決まった時刻に返さなければ、翌日は貸し出しません。そのようなペアレンタルコントロールもいいですね。

スマートフォンだけでなく、ゲーム機もインターネットのアクセス制限やインターネットを通じての出会いや買い物などの制限ができるようになっています。このようなペアレンタルコントロール機能の設定は、確実にいきましょう。

<上越市教育委員会学校教育課 田邊道行>

市P連 負担金の値上げについて

市P連負担金の値上げにつきましては、少子化による児童・生徒数の減少による収入額の減や、新潟県PTA連合会の負担金の値上げなどの諸事情により、これまで執行部、理事会、代議員総会で議論を重ねてきました。

平成27年度代議員総会において、市P連負担金の値上げについて承認を得て、理事会において、負担金額を児童・生徒一人当たり年額200円から300円に値上げすることが承認されましたのでお知らせします。

これからも、子どもたちがより充実した学校生活を送れるよう積極的に活動を進めて参りますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆市P連負担金

市P連負担金を児童・生徒一人当たり平成28年度から年間300円とする。

(最終決定は平成28年度代議員総会での議決後になります。)

新潟県小中学校PTA研究大会 胎内大会に参加して

飯小学校PTA会長

小澤 裕

「目からうろこ」とは、有る事がきっかけで迷いからさめたり物事の実態がわかるようになる。先日参加した県P連胎内研究大会で木下晴弘氏が講演された演題です。

PTA会長に就いてから教育に関する講演を聞く機会に接し、その全てが「目からうろこ」でした。

この講演では、木下氏が以前、塾の講師をされていた経験から子どもをやる気にさせる為の手法や人間関係の構築について講演して頂きました。

子どもはなぜ勉強するのか？なぜ習い事をさせるのか？みなさんは考えた事がありますよね？この質問を入塾される親子さんに問うと「良い大学に入り良い企業に就職する為」と答えるそうです。その先は？の問いにはだんまりしてしまふとか・・・。「その先」の意味に気付いた時、子どもの学力は一気に伸びるそうです。目的を見据えそれをクリアする為の目標（過程）を明確にして取り組む事が大切であると言う事です。



胎内市産業文化会館前にて

又、人間関係については、自分の子どもに対して存在証明を持つ事が大切だと言う事です。「生まれてきてくれてありがとう」の感謝の気持ちを持てる親が少ないそうです。自分の存在価値を確かめ「喜びを与える気持ち」を持ち続ければ自分もハッピーになれる。そんな人間関係を築いていければと思います。

みなさんの家庭ではどうでしょう。子どもの事、学校の事、教育の事、話す機会ありますか？研究大会に参加して子ども達の将来を見据え考える良いヒントを得ました。今後も学校と家庭、子どもと地域をつなぐ為に積極的にPTA活動に参加したいと思います。

編集後記

今年は暖冬ということで雪も少なく、皆さんも比較的穏やかな冬を過ごされていることと思います。

市P連PRESSも今年度2回目の発行を無事終えて編集委員一同ほっとしております。

この一年様々な場面で子どもたちと電子メディアの関係について考えさせられる機会をいただき、その問題の複雑さと底の深さに戸惑うばかりでした。

本誌もこの問題について皆さんに発信してきましたが、どうか子どもさんがトラブルに巻き込まれる前に親子で話し合いをしてみてください。

最後にお忙しい中、時間を割いて本誌に寄稿してくださいました皆様並びに各役員の皆さん大変お疲れ様でした。

発行 上越市小中学校PTA連絡協議会

編集 広報委員会

委員長 塚田 克俊 (大潟町中学校)
副委員長 松野 伸二 (牧中学校)
委員 磯谷 史朗 (南本町小学校)
成田 一栄 (稲田小学校)
齊藤 洋一 (春日中学校)
八木 智学 (諏訪小学校)
渡邊 幸栄 (八千浦中学校)
歌川 宏枝 (名立中学校)
飯田亜裕美 (大島中学校)
金子 哲也 (板倉中学校)

本部担当 小澤 裕 (飯小学校)

問合せ 事務局

TEL 025-545-9203 FAX 025-545-9208

E-mail jyoutpta@joetsu.ne.jp